

平成28年度第1回刈谷市総合教育会議 議事録

- 1 日 時
平成28年5月26日（木）午後1時～午後2時
- 2 場 所
刈谷市役所 701会議室
- 3 議 題
(1) 刈谷市総合教育会議について
(2) 主な平成28年度予算事業について
(3) 意見交換
- 4 出席者
市 長 竹中 良則
教育委員会 委 員 長 池田 裕幸
教育委員会 委員長職務代理者 日下 ゆかり
教育委員会 委 員 神谷 修
教育委員会 委 員 畠 留美
教育委員会 委員（教育長） 太田 武司
- 5 欠 席 者
なし
- 6 会議構成員以外の出席者及び事務局
企 画 財 政 部 長 清水 一郎
教 育 部 長 間瀬 一芳
企 画 政 策 課 長 岡部 直樹
教 育 総 務 課 長 加藤 幹雄
学 校 教 育 課 長 神谷 拓生
企画政策課 課長補佐兼政策推進係長 高野 洋
教育総務課 課長補佐兼施設係長 塚本 吉郎
学校教育課 課長補佐兼学事・保健係長 加藤 重行
企画政策課 経 営 管 理 係 長 山口 繁
教育総務課 総 務 係 長 神谷 友理
企画政策課 主 事 （ 書 記 ） 伊藤 志穂
- 7 傍 聴 人
なし

(企画財政部長)

定刻になりましたので、始めさせていただきます。企画財政部長の清水でございます。皆様におかれましては、大変お忙しい中、刈谷市総合教育会議にご出席いただきまして、誠にありがとうございます。

それでは、只今から平成28年度第1回刈谷市総合教育会議を開会させていただきます。会議に先立ちまして、刈谷市長の竹中良則よりごあいさつを申し上げます。

(市長)

皆様、こんにちは。市長の竹中でございます。

ご多忙の中、総合教育会議にお集まりをいただき、誠にありがとうございます。本日も大変蒸し暑く、今年の夏も本当に思いやられますね。

先月の熊本地震につきましては、被災者の皆様には心からのお見舞いを申し上げたいと思います。平成7年の阪神淡路大震災、平成23年の東日本大震災ときて、今回の熊本地震ということでありまして、本当に常日頃から防災対策や準備が必要だと改めて思うところがあります。

さて、本日は本年度第一回目の総合教育会議ということでございます。昨年度は、総合教育会議のスタートとともに、皆様と一年間かけて刈谷市の教育大綱を定めてまいりました。大綱の中では、「育てたい子ども像」として「自己肯定感と自己有用感に支えられ、確かな学力と体力を身に付けた、当たり前前の子どものことが当たり前前のできる子ども」を掲げております。本当に素晴らしい大綱ができあがりまして、本年3月定例会の文教委員会でご報告させていただきました。そして、今年度から大綱の方針に基づきまして本市の教育行政を進めてまいりたいと思っております。

それから、熊本地震への支援に関しましては、市も議会も、また、民間の方々も、例えば防災まちづくり協議会が支援物資を送られていたり、官民そろって様々な支援を行ってきているところでありますが、そのような中、私が大変嬉しかったことがありました。それは子ども達が自発的に行動して支援活動を行ったというものです。生徒会サミットという集まりでの意見を発端に、市内全6中学の生徒達が日曜日に各学区で街頭募金活動をして80万円もの大金を集めていただいたようです。刈谷の子ども達が自発的に行動を起こすということが既にできていることを実感し、このような生徒会サミットの活動だけではなく、いざ何か何か起こったときには自分達で行動できる主体的な子ども達に育ってくれるのではないかと感じ、本当に心強く思っているところでございます。そういった部分を更に伸ばしていくという意味でも、これからも、教育大綱に基づきまして、私も全力をあげて取り組んでまいりますので、皆様のご理解とご協力を賜りますよう重ねてお願い申し上げまして、私のあいさつとさせていただきます。よろしく申し上げます。

(企画財政部長)

ありがとうございました。それでは、議題に入らせていただく前に、本日の会議資料を確認させていただきます。

資料は、事前にお渡しさせていただいておりますが、本日ご持参いただけていない場合は、用意いたしますのでお申し付けください。

最初に、本日の次第、次に当会議の名簿、続いて、

資料1：刈谷市総合教育会議について（A4 1枚）

資料2：主な平成28年度予算事業（A4 ホチキスどめ）

参 考：刈谷市教育大綱（A4 ホチキスどめ）

そして、本日、机の上に配付させていただきました座席表でございます。資料の不足がございましたら、お申し付けください。

なお、議題に入る前にお願いがございます。当会議の様子につきまして、市のホームページ等で情報を公開していく予定であります。つきましては、写真や議事録などを掲載して参りたいと考えておりますので、ご了承ください。

続きまして、本日の出席者につきましては、お手元の座席表をもって代えさせていただきます。

それでは、次第に従いまして議題に入らせていただきますが、これより議事の進行は竹中市長にお願いしたいと思います。

（市長）

皆様のご協力を得まして、円滑に進行してまいりたいと思いますので、よろしく申し上げます。議題（1）「刈谷市総合教育会議について」と議題（2）「主な平成28年度予算事業について」を合わせて、事務局、説明を願います。

（企画政策課長）

まず、議題（1）「刈谷市総合教育会議について」説明させていただきます。この会議の内容や主旨などは、昨年度、教育委員の皆様とともに行ってきておりますのでご存じのことと思いますが、改めて簡単に説明させていただきます。

総合教育会議は、地方教育行政の組織及び運営に関する法律の一部改正に伴いまして、各自治体に設置されている会議でございます。資料1の枠の下、3つ目の□にございます、総合教育会議における協議、調整事項についてご覧ください。まず、①教育行政の大綱の策定でございますが、これにつきましては、昨年度1年間教育委員の皆様のご協力を賜り、平成28年度から平成32年の5か年の大綱を策定いたしました。次に、②教育の条件整備など重点的に講ずべき施策について意見の調整を行っていただく場でございます。それから、③緊急に講ずべき措置が必要な場合に、随時この会議を開催するということになっております。①につきましては、昨年度策定した教育大綱に基づいて5年間教育行政を進めてまいりますので、本市のこの総合教育会議においては、今後暫く、特に②について、刈谷の教育がより良い方向に進んでいくよう市長と教育委員の皆様との意見交換の場という位置付けで進めさせていただきたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

その次の、②平成27年度刈谷市教育会議につきましては、記載のとおり4回の会議を開催し、主に大綱の内容についてご検討いただいております。今後につきましては、緊急に会

議を招集する状況がなければ、基本的には年2回程度で、意見交換を主とした会議とさせていただきたいと思っております。ただし、本年度につきましては10月から新たに「新教育長」体制での教育行政の推進になりますので、新体制となった後に一度開催するため、合計年3回の予定とさせていただいております。よろしくお願いいたします。

議題（1）「刈谷市総合教育会議について」の説明は以上となります。

（教育総務課長）

続きまして、議題（2）「主な平成28年度予算事業について」説明させていただきます。資料2「主な平成28年度予算事業」をお願いします。

刈谷市の教育大綱の中に記載してあります、A3の「教育大綱の4つの柱」と基本施策の一覧の中で、「知」、「徳」、「体」、「環（わ）」の4つの柱ごとに、主なものとして、点線で囲ってある施策について、具体的な事業内容を説明させていただきます。

次ページをお願いします。まず「知」の確かな学力の定着でございますが、学ぶ意欲を高めるための指導方法・指導体制の工夫・改善を図るため、「少人数授業充実事業」では、すべての小学校において、国語、算数の授業で少人数授業を実施し、一人ひとりの児童にきめ細やかな指導を行うものです。

続きまして、教科指導の充実を図るため、理数教育の充実として、「理科観察実験支援事業」では、理科授業における観察実験の準備及び授業の補助を行うため、退職した教員など地域人材を活用し、観察実験アシスタントとして全小学校へ配置するものです。「理科大好き推進事業」では、理数大好き推進協議会への事業委託及び小中学校への理科研究補助を行うものです。

次ページをお願いします。「徳」の豊かな心の育成でございますが、豊かな体験活動の推進・ふるさと刈谷を大切に作る心の育成として、刈谷市のまちの歴史文化に誇りを持つため、奈良県東吉野村との「文化交流事業」では、小学校6年生を対象に、1泊2日で訪問するものです。

続きまして、命を大切に作る心や思いやる心の育成として、防災意識の高揚と被災地復興の願いを込め、「中学生被災地派遣事業」では、市内6中学校の代表生徒が、夏休みに東北の被災体験を学び、訪問後は、各学校の報告会において情報の共有を図るものです。

次ページをお願いします。「体」の健やかな身体づくりでございますが、健康の増進として、「部活動指導者活用事業」では、優れた技能・指導技術を身につけた方を中学校部活動の指導者として委嘱し、部活動の活性化を図るものです。

次ページをお願いします。「環（わ）」の学習環境整備・安心安全確保でございますが、快適で安全な教育環境の整備として、「小・中学校大規模改造等事業」では、老朽化した校舎・園舎の機能回復を図るため、記載のとおり大規模改造及び改築を行うものです。

また、下段の「空調設備整備事業」では、児童生徒の安全と教育環境の向上を図るため、普通教室等に空調設備を設置するための設計を行うものです。

次ページをお願いします。上段の「特別支援学校建設事業」では、平成30年4月の開校を目指し、肢体不自由児が通うことができる特別支援学校の建設を行うものです。

続きまして、下段の「第一学校給食センター建設事業」では、老朽化した第一学校給食センターを小垣江東小学校の敷地内に移転するものです。

議題（２）「主な平成２８年度予算事業について」の説明は以上となります。

（市長）

では、事務局からの説明内容についてなど、ご意見、ご質問はございませんか。

（委員長）

予算について教えていただきたいのですが、これらは、総合教育会議や教育大綱を受けて新規に計画されたものですか、それとも、従来予定されていたものをこの枠組みに位置付けたものですか。

（教育総務課長）

これらは、基本的には、以前から計画的に行ってきたものです。

（市長）

教育委員会関係の予算は殆どすべて大綱に関わってくるものと考えていただいて、そのうちの特に重要なものを今回このように「主な予算事業」として紹介したということになりますね。

（神谷委員）

この「主な予算事業」の中で、「徳」にあります、「奈良県東吉野村との交流」に特に興味をもちました。私たち教育委員も視察で東吉野村にはお邪魔したのですが、過疎が深刻な問題となっており、交流を通して子ども達がこのような村の現実を知ることは非常に大きな意味を持つと思います。やはり、素晴らしいことばかりではなく、厳しい現実も目の当たりにするような機会が必要です。そういったことを意識していただき、今年度も日高小、富士松東小、小垣江東小の３校が行くということですが、引き続き実施してほしいと思います。

（市長）

「徳」には、奈良県東吉野村と東北被災地への訪問が載せてありますが、どちらも、子ども達の豊かな心の育成のために貴重な体験になるものと考えています。

（学校教育課長）

東北被災地へは夏休み期間中に訪問し、奈良県東吉野村へは１０月に、今年から修学旅行（京都奈良）の１泊２日と合わせて２泊３日で行く予定でございます。

（教育長）

東吉野村には、有名な“おばあちゃん”というかお嫁さんがいらっしやいましたね。先祖

代々の言い伝えを守っていたり、孫の面倒をみていたり、それらがまさに「徳」といえるものだと感じました。子ども達もそれを肌で感じて、「徳」の心を養ってほしいと思います。

(市長)

ありがとうございます。それでは、議題に限らず、日頃の教育への思いや当会議へのご助言や感想など、どんなことでも結構ですのでお話いただければと思います。では、委員長から順番にお一人ずつということではいかがでしょうか。

(委員長)

先程説明していただいた教育大綱の4つの柱に基づいた予算や、我々教育委員などからの要望への対応などにつきまして、日頃からいろいろと考えて推進していただき、大変ありがたいと思っております。市長さんをはじめ皆様の努力のおかげで、刈谷の子ども達は非常に恵まれた環境でいい教育が受けられているというのが私の思うところであります。そのような中で、この「環」つまり「環境」というものはとても大事ですし、大綱に位置付けてあってよいことであると思えます。

私自身、ものづくりを生業としておりまして、子どものころから「勘考(かんこう)せよ」つまり「工夫しろ」とよく言われていました。創意工夫といえば刈谷の教育の基本といえるものであり、これまでも脈々とその精神が続いてきたからこそ、今の素晴らしい状況があるのだとも思っています。私も、いかによいものを作って人の役に立つかを使命としてきており、また、そういった社員教育なども行ってきております。ぜひ、学校教育を含めて、この「ものづくりのまち」を更に発展させて、日本の基本的な精神を子ども達に伝えてほしいと思っております。

先日、平成幼稚園の修了式にお邪魔した際に、園長先生より、からくり時計の話をしていただいたのが印象的でした。園にあるからくり時計が壊れているのですが直すことができないということでした。それはただ費用がないというだけの問題ではなく、直すことのできる技術者がなかなかいっらっしゃらないということでした。ものづくりの技術のすごさなどを子ども達にもっと身近に感じてほしいと思います。

(教育総務課長)

からくり時計は、時計としての機能は問題ないのですが、からくり部分が壊れているという状況にあります。

(日下委員)

教育委員の特に大切な仕事として学校訪問があると思っております。私は様々な学校に積極的に訪問させていただいております。そのような中で、保健の先生がよく先生方の健康について言及されておりました。気になっているところであります。先程委員長も仰っていましたが、刈谷において子ども達の環境は大変恵まれたものになってきている、その一方で、

先生方はやはりまだ大変な状況であるように感じます。子どもが笑ってられるのは先生が笑ってられるからだと思いますので、日頃からいっぱいになりながらも真面目に頑張っておられる先生方の処遇等についても、より考えていただけたらと思います。

それから、環境のことで「こども110番の家」についてですが、私の家もこの制度ができた当初から掲げておりまして、いざという時のために大変よい仕組みであると思っております。ところが、地域の大人の方は毎年挨拶に来られるのですが、子ども達が訪ねて来たことはないのです、この110番の家の場所を知っているのかと疑問に思います。新一年生が入ったくらいの時期に、「ここが110番の家だよ。」と言って案内して、試しにチャイムを押してみてもいいですし、そういったことをしてあげるとよいのではないかと思います。

(学校教育課長)

新一年生が入りますと、当初は先生方と一緒に集団下校をしております、その際に110番の家の案内をしております。

(教育長)

では、これからは、日下委員の仰るように、試しにチャイムを鳴らさせてもらってもよいかもしれませんね。実際にその家の人と顔を合わせるということは重要で、この人がこのお家の人なんだと知っておくことで犯罪の抑止にも繋がると思います。

(神谷委員)

今年もいくつも学校訪問をさせていただき、子ども達も先生方も、非常によく頑張っているなど感心しています。そのような中で、少人数学級について少し危惧しております、多くの学校で導入され定着してきているところではありますが、現場では優劣をつけることを必要以上に嫌う傾向にあるように感じます。果たしてそれはよいことなのでしょうか。理解のできている子もそうでない子もいて、その中で競争心が芽生えることもあるでしょうし、もう少し優劣をつけるようにしてもよいのではという気がします。

一方で、先日、青山学院大学陸上競技部監督の原晋先生の講演を聞く機会がありまして、その子に合わせた目標設定が大切であると仰っていたのが印象的でした。既に実施しているとは思いますが、例えば、100点満点中60点しか採れなかった子が70点を採ったら褒めてあげて、常に100点を採っている子が90点しか採れなかったら励ますといった個別の対応をしていく必要があると思いました。

さて、少し話は変わりますが、学校にある二宮金次郎の像についてですが、あれを、「ながら勉強」で、交通事故に遭うからやっちはいけないよ、と思っている人もいるといいます。そうではなくて、一生懸命仕事をする傍ら勉強しているんだよ、ということですから、それを子ども達にきちんと伝えていかないと意味がないのではないかと感じているところでもあります。

最後にもう一点、先程、委員長が「勘考(かんこう)」と仰っていたので、その繋がりで思

い出したのですが、「観光」について少し述べさせていただきます。先日、小堤西池へ行ってきたのですが、日本三大カキツバタ自生地という大変価値のあるものですので、見に来た人に自然だけをお見せするのではなくて、もっと、何かお迎えするような仕掛けがあるといいと思いました。例えば、遠くまで見渡せる展望台やちょっとしたお土産店を作ったり、もう少し散策できるようにしたり、当然、制約もあると思いますが、是非検討していただきたいと思います。

(島委員)

先程、委員長も仰られていましたし、私自身が学校訪問等に伺った際にも思っていることなのですが、刈谷は「環境」つまりハード面で、とても恵まれていると感じております。そのような中で、だからこそといいますか、より心の教育に重きをおいていただきたいと期待しているところであります。もちろんこれまでもしてきていただいていると思いますし、市長さんからも、生徒会サミットの自主活動や中学生が地域の防災活動へ主体的に参加しているといった話を聞いておりまして、大変素晴らしいことだと思っております。私自身も地域で子ども達のいろんな話を耳にしております、例えば、地元で行われた敬老会にボランティアで参加していた中学生が飛び入りで和太鼓を演奏したというもので、それも、婦人会等いろいろな出し物を用意して下さっている中で、自分たちで時間がありそうだと感じて主催者の方に持ちかけ、その場で飛び入り参加したようです。高齢の方々ももちろん大変喜ばれましたが、会場になっていた小学校の校長先生も、子ども達のこのような面が育ってきたのかと感心され、本当に嬉しそうに教えていただきました。

また、本日の新聞に取り上げられていたのですが、心に響いた言葉とそれにまつわるエピソードをまとめた冊子「たった一言で」に朝日中学校の5人の作品が収録されたそうです。自分は周りの役に立っている、ですとか、人に喜ばれると自分も嬉しいなあ、といった気持ちたちが着実に芽生えてきていると最近特に実感しておりまして、子ども達も先生方も是非自信を持っていただいてこのような取組みを引き続き頑張っていただけたらと思っております。

(学校教育課長)

これは、中日新聞で「ほろほろ通信」を執筆する志賀内泰弘さんが代表を務める「プチ紳士・プチ淑女を探せ！運動」事務局が公募したもので、朝日中学校では、人や自分を傷つける言葉でなく、人への思いやりのある言葉を使うことで、生徒たちの自己肯定感を育もうと600人が参加しまして、全国からの応募3,385点の中、5点の作品が冊子に収録されたというものでございます。

5点のうち、中日新聞に取り上げられていた作品が「親切貯金と思えばいい」という朝日中3年の生徒さんの作品で、「親切にしてあげたのに恩を返してくれない」と友人関係で悩んでいたとき、母親から「親切貯金だと思えばいいと。返してくれなくてもきっと後で役に立つ。」と諭され、胸のつかえが下りたというエピソードです。読んでいて非常にいい話であると思いました。

(教育長)

私からも2点程、述べさせていただきます。まず、先週の徳島での全国都市教育長協議会や、ここ2～3年、全国や東海北陸の教育長会に出させていただき中で、つくづく思いますのは、どこも郷土の歴史文化を掘りおこし、それを子ども達へと伝えるようにしてきているということです。それを本当に幼少期の頃からやってきているようで、やはり、最終的に都市が成熟して生き残るのは郷土の歴史文化がしっかり受け継がれているのだと思うところがあります。これから教育委員の皆様と相談してやっていくわけですが、そういったことに力を入れることで、最終的に子ども達が成人した時に社会の力になっていくのであらうと思っています。

二点目は、これも最近切に感じる事なのですが、子どもの力というのはすごいな、ということでもあります。例えば、生徒会サミットで主体的に熊本地震への募金を行ったり、東日本大震災を受けて地域の防災訓練に積極的に参加したりというように、子ども達はそういう機会を与えればいくらでも自分達でやる。つまり、そういう機会を積極的に作り出し、子ども達を信頼していろいろやらせていくことが大事であると思います。平成30年に小垣江東小学校に特別支援学校がスタートしますが、これをどのように子ども達に展開していくかを考えていかねばならないと思っています。単に肢体不自由の子ども達が通うところということではなく、それを通して、いかに子ども達の心の豊かさを耕すことに繋げていけるかが最大の課題であると痛感しています。

(市長)

これは子ども達というより大人の問題であると思うのですが、以前、各中学校で次世代タウンミーティングをやらせていただいた時に、親が語っていない、大人が語っていない、近所のおじさんおばさんが話をしていない、子ども達は本当に子ども達だけの世界に住んでいるような印象を受けました。そういう世の中で、このままでは何もかもそこで分断されてしまうような気がしまして、私は、やはり歴史文化をみんなで子ども達に伝えていきたいと強く思った次第でございます。今まさに、自分のいるところの歴史文化というものの価値が大きく見直されていると思います。国も同じで、日本文化遺産やジャパンビューティーといったものはまさにそういった発想からきていると思いますし、やはり、日本の古くから伝わる文明文化歴史などがだんだん薄れてきて、ここで途切れさせてはいけないということにみんなが気付かだしているのだと思います。皆様におかれましても、そういった取組みに是非お力添えいただきますようよろしくお願いします。

最後に、一点確認しておきたいことがあります。先程の「主な平成28年度予算事業」の「確かな学力の定着」の「理数教育の充実」の中で、「理科観察実験支援事業」や「理数大好き推進事業」などがございましたが、刈谷の理科教育、それから先程委員長も仰られたように、ものづくりに関しましては、全国的にも非常にレベルが高いということは周知の事実であります。そのような中、昨年、夢と学びの科学体験館を見させていただいたのですけれども、その体験館は学校教育や理科教育とどう関わっているのかを教えていただけないでしょうか。

(学校教育課長)

市内全小学校の4年生と6年生が年に一回ずつ、バスで夢と学びの科学体験館に行きまして科学体験教室を行います。プラネタリウムとラボでの実験をセットで行います。

(市長)

そうなのですね、夢と学びの科学体験館で実験等を行う機会がもう少し多くなるといいなと思います。といいますのも、この体験館をつくった時、各学校では多種多様な実験の器具や薬品をすべて揃えたり指導する先生を据え置いたりすることは、物理的にも人間的にも無理だと思いますから、もっと刈谷の理科科学レベルを上げるために、この体験館で学校ではできないような高度な実験や科学の勉強をできるようにしたいという思いがありましたので、もっとそういった用途でも活用していただけたらと思う次第であります。

(教育部長)

確かに、例えば電子顕微鏡などはかなり高度なもので、それでしか見られないものもあると思います。体験館の活用につきましては、これから更に工夫してまいりたいと思います。

(教育長)

小学校4年生と6年生以外では、小中学校の理科部や理科クラブが研究の際に体験館に赴いて電子顕微鏡などを使っているようであります。

(市長)

そういった活用の仕方をお願いしたいと思っております。よろしく申し上げます。

さて、時間になりましたので、以上をもちまして、本日の会議を終了いたします。次回は10月27日(木)を予定しておりますので、既に通知させていただいておりますが、改めて日程の確保をよろしく申し上げます。

本日はどうもありがとうございました。